

第5学年1組外国語科

単元名 What would you like? ～Let's make “5-1 lunch menu”!～

(NEW HORIZON Elementary5 Unit6 参照)

1 文脈と状況を大切にした単元づくり

NEW HORIZON Elementary 5 Unit 6 に取り上げられているレストランでの注文場面を扱った題材である。本単元は、NEW HORIZON Elementary 5 Unit 6 を基に本誌の内容を児童の実態と興味・関心に合わせて次のように構成した。児童が明確な目的意識・相手意識をもって課題を解決するために、「全校のために自分たちが考えた給食メニューを喜んで食べてくれるように」という思いをもってゴールについて話し合い、パフォーマンス課題を設定した。児童は、1年間の学習を見通した際に、単元のテーマや内容から、本単元でこれまでの6年生のように給食メニュー作りをやってみたいと声を挙げたため、児童の意欲を汲み取り単元を作成した。

これまで先輩たちが行ってきた給食メニューの紹介に憧れをもって過ごしていた本学級の児童たちが、全校に喜んでもらいたい、おいしい給食を考えたいという切実感をもって取り組んでいる。

児童は、友達に伝えるために必要な表現について、相手の実態を考えて適切な表現や方法を選んで紹介する活動に向かっていく。これまでの学習において紹介する際には、国語科で学んだり外国語活動・外国語科等で意識したりした、相手に分かりやすく伝えるための工夫を活用している。本単元のような紹介をゴールとする内容では、自分の考えや気持ちを目的や場面に合わせて他者に伝えることが重要である。他にも、相手に自分の考えや気持ちを理解してもらうためには、会話を続ける経験を積み重ねて自信をもって発表に臨むことも必要であると考えます。既習の表現と他教科の学びを結び付けながら、給食メニューの紹介をよりよいものにしようとする児童の姿にも期待する。

本学級の児童（34 名）について、指導案に記載した本単元の中で特に高めたい3つのコミュニケーション能力（「社会言語能力」「談話能力」「多様な文化等を尊重する態度（表1、態度）」）における意識調査の結果については以下の通りである（表1）。

表1 本単元で設定したコミュニケーション能力についての意識調査内容とその平均値

	質問内容	項目ごとの平均	能力としての平均
社会言語能力	相手に嫌な思いをさせる言い方をしていない。	3.64	3.38
	内容に合わせて言う英語を選ぶ。	3.27	
	場面や状況に合わせて英語を話す。	3.24	
談話能力	2往復以上、会話を続けている。。	3.27	3.24
	話をできるだけ続けようと気を付けたり、考えたりして相手と話をしようとしている。	3.30	
	同じだったり関係していたりする内容やテーマのこと、話している相手のことについて話を続けようとしている。	3.15	
態度	相手のことを分かろうと熱心に聞く。	3.45	3.26
	相手の言ったことに反応したり相づちをうったりする。	3.42	
	自分と違う情報の時や知らなかった情報の時などは、理由など詳しく尋ねる。	2.91	

※4件法（点数が大きい方が「意識している」となる）を用いて調査した。
（参考資料）・入江潤（2023）「英語のコミュニケーション力とは何か？」JASTEC九州沖縄支部研究大会資料
・明星学園小学校（2011）『2011年度公開研究会報告集』

2 授業の実際と次時以降の活動について

単元の学習内容を見通し、ゴールを設定する

まずは、本単元ではどのようなことを学ぶのかを全体で確認し、教科書ではどのような構成になっているのか、どのような内容があるのか、自分たちではどんな活動が考えられそうかを個人や全体で共有し、パフォーマンス課題を設定した。内容を児童自ら計画することについては戸惑っていたため、例を提示したり、前単元の共有ノートを参考にするように声掛けをしたりして、単元のゴールや学習内容、活動について考え

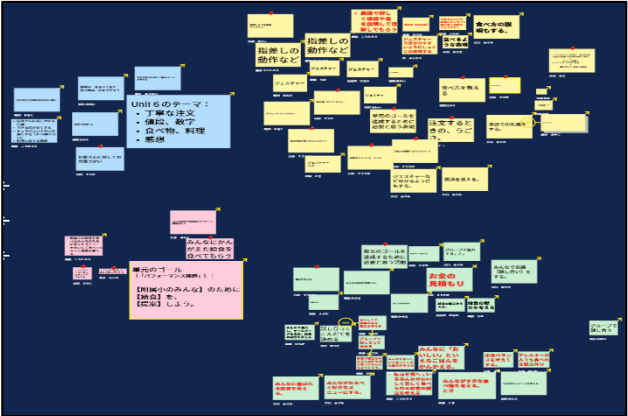


図1 「共有ノート」を活用した単元作り

るヒントとした。その際、図1のようにロイロノートの「共有ノート」で、1人1人の考えを把握し、児童がゴールに向かうためにどのような活動や表現を必要としているのかを見取り、教師が本単元のT2Rサイクルを作成した(図2)。

給食メニューを作る際の視点を確認し、
班で給食メニューを考える

いざ「給食メニューを考える」となると、児童は自分たちの好みの料理を当てはめていた。しかし、それでは給食としては成り立たない。そこで、栄養教諭や栄養士から献立作りについてのアドバイスをもらい伝えた。児童はそれらの話を基に、どのような視点(ポイント)で給食メニューを作っていくかを話し合い、テーマを決めてそれぞれに給食メニューを考えていた(図3)。

給食メニューを作る際の視点を意識しながら、
伝えるための表現を練習する

本単元で扱う表現について、さらに児童が給食メニュー作りや紹介で使いたいと考えている表現について確認したり、練習に取り組んだりした。料理名や値段を伝え合う練習として、“What would you like?” “I'd like ~.” “How much is it?” “It's ...yen.”などの表現を使ったやり取りを通して、児童の欲しいカードを渡したり受け取ったり、合計がいくらかになるのか考えたりしながら積極的に活動に取り組む様子が見られた。やり取りの中で伝え合う内容について「この料理を入れるといいんじゃない?」「バランスいいメニューだね」などアドバイスや感想を伝え合う姿も見られた。振り返りでは、表現の不十分さよりも次の活動や給食メニューに対する課題を見付け、見通しをもつことができた児童の姿が見られた。

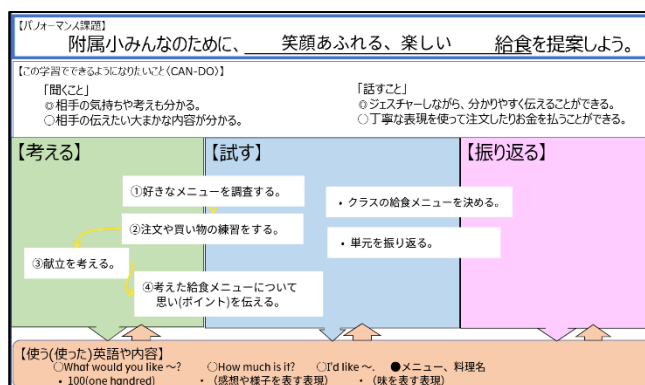


図2 本単元のT2Rサイクル

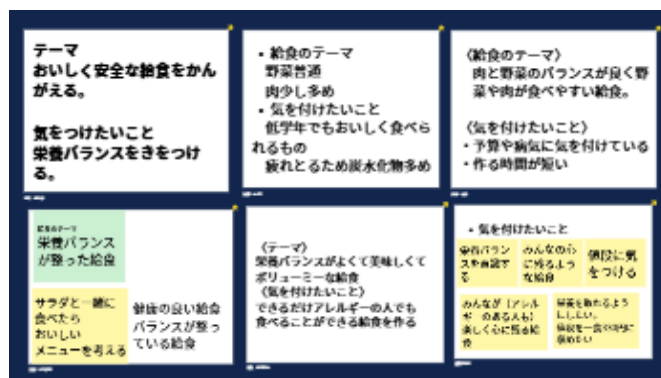


図3 給食メニュー作りの視点(一部)

3 本時について

本時は、班で考えた給食メニューを基にクラス代表を決めるためにどうアピールするかを考える時間である。本時の活動としては、まず、全体のめあてと個人のめあての設定・把握する。次に、Small Talk で既習表現などを使って班の給食メニューを確認したり、他の班がどんな給食メニューを作ろうとしているかを調べたりすることを通して、本時のめあてを意識することができるようにする。中心活動では、教師の例を参考に、班の給食メニューのポイントを踏まえながら、どのように紹介するかを話し合ったり、練習したりする。活動を通して、クラスの給食メニューを決めるという目的を意識しながら、友達に分かりやすく自分たちのポイントを伝えられるかを考え取り組む児童の姿を期待する。教師の役割としては、目的や給食メニューを考える際に大切にする視点を全体で確認しながら、ゴールを見失わないよう指導する。さらに児童の伝えようとするポイントや内容に対して価値付けることで、児童の話す力と聞く力の両方を伸ばすように指導を行っていく。

4 次時以降の活動について

7時目以降は、以下のような学習活動を設定する予定である。

7時目 5の1給食を決定し、栄養士に提案する

クラスでどんな給食メニューにするかを決定し、どのように伝えるかを話し合い、準備を行う。そして、「5の1給食メニュー」として栄養士に提案する。

8時目 単元を振り返る

これまでの活動における評価に加えて、給食メニューをALTに紹介することで話す内容や工夫、そして、ALTとのやり取りの中で【知識・技能】【思考・判断・表現】の評価を行う。その際、ルーブリックを作成して、児童と共有し、児童自身が自分なりの目標を設定できるようにする。